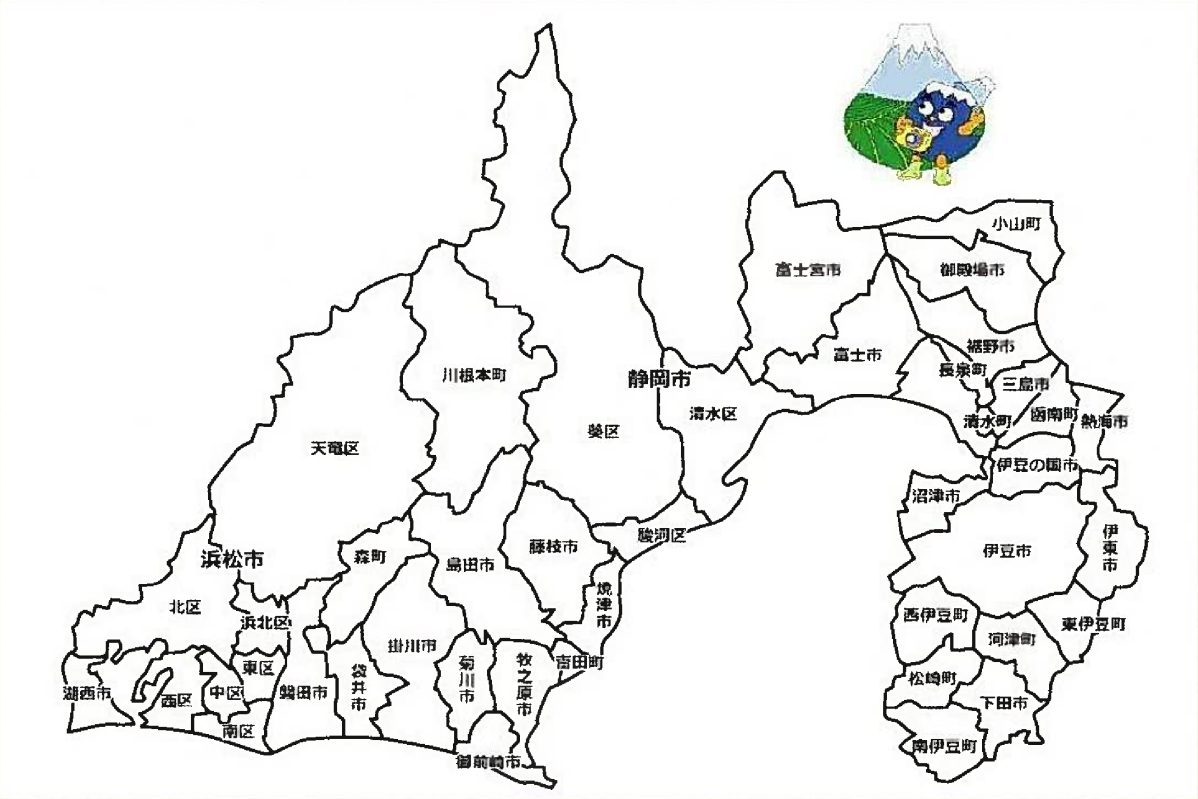
令和３年度生活困窮者自立支援制度人材養成研修
都道府県研修に係る担当者研修（後期研修）

静岡県における人材養成研修

静岡県の概況

・人口：３，６０２，８４０人
　　（Ｒ３.１２.１現在）
・面積：７，７７７㎡
・市町数：２３市（政令市２市、１０区）
　　１２町
・特徴：北側は南アルプス、南側は駿河湾、遠州灘に面している。東西に長く、経済的には東部は東京圏、西部は名古屋圏とつながりが深い。また自然豊かで観光業が盛んな伊豆半島を有しているなど、多様な地域性を有している。



静岡県からの事例報告

1　コロナ禍での研修手法の模索

2　オンライン研修の課題への対応

3　Ｒ４年度の取組にむけて

1　コロナ禍での研修手法

（１）研修企画チーム

主任相談支援員、医師会職員、市職員、県社協職員、県職員等のメンバー

（２）研修企画にあたり、話し合ったこと

・コロナ禍に伴う相談件数の増加で現場は疲弊している。バーンアウトの危機

・様々な課題を抱えた方からの相談は増加しているが、現場は相談件数の増加やスキル不足で十分に対応できていないのでは。

支援員の方が求める、
現場目線の研修にしよう！

（３）研修内容について

支援員の方が何に困っているのか、アンケートを実施

自立相談支援機関の相談員へのアンケート（一部抜粋）

項目	ある	ない
相談において、アセスメント不足や支援施策の案内漏れを感じることがあるか。	９３％	７％
相談者の支援方法について、情報交換の場はあるか。	３２％	６８％
相談において、医療・司法・福祉の専門家に相談したいと思ったことはあるか。	１００％	０％

その他、
「福祉の経験がないが、相談に応じている。」「相談者は私の提案に満足しているとは思えない。」など、相談者の対応方法（アセスメント等）に悩んでいることが判明。
また、精神疾患を有する方の対応方法や債務整理について、専門家からの講義を希望する声があった。

支援員の対応能力が向上する研修にしよう！

（４）研修方法について

開催方法	メリット	デメリット
集合研修	参加者が直接顔を合わせて議論ができ、研修会終了後の交流にもつながる	新型コロナウイルス感染症の感染者数の状況により、開催が不透明
オンライン	感染状況に左右されず、開催できる。	・オンラインで参加者同士の交流が深まるか。 ・受講中に他の業務の対応をせざるを得ない状況ならないか。
ハイブリット（集合とZoom）	集合、オンラインのメリットを併せ持つ	・集合して実施の場合、参加者の所属自治体が偏り、議論に広がりがない。 ・会場、オンラインの２会場を運営しなくてはならず、業務量増加。

（５）研修内容

以下の点を工夫しました。

①新任の支援員が相談対応に困らないよう、基礎研修を年度当初に実施！

②オンラインの特徴を生かしたロールプレイングを実施！

③支援員ヘルプデスクでの対応事例の発表会を開催！

④実際の相談現場での実地研修を実施！

⑤生活困窮者に携わる様々な者との連携を図るため、対象者を幅広く設定！

研修名称	区分	⑤ 対象者	開催日	内容
静岡県自立相談支援事業従事者養成研修	必須	主任相談支援員、相談支援員養成研修、就労支援員養成研修、その他生活困窮者自立支援事業に従事する者、生活保護事業等、福祉事業に従事する者	① 4月27日	生活困窮者自立支援制度の理念と基本姿勢、支援員に求められるアセスメント力、自立支援システムの活用
静岡県自立相談支援事業従事者養成研修			5月28日	住居確保給付金の活用、包括支援体制の構築、支援調整会議の現状、法テラスの役割と連携、地域づくり
静岡県自立相談支援事業従事者養成研修	任意		7月14日	相談支援の流れ、ソーシャルワークの視点、ロールプレイを用いたアセスメントの演習 ②
静岡県自立相談支援事業従事者養成研修			11月11日	困窮者支援と精神科の連携、民間企業との就労支援の連携、連携が持続するための支援方法
③ 支援員を支えるネットワーク構築事業の支援事例発表会			12月22日	自立相談支援員のためのヘルプデスクデスクへの相談事例及びその対応方法等の事例発表会
④ 実地研修			年６回（奇数月）	多職種（医療・司法・福祉）連携の相談会での実地研修

（６）研修詳細

②オンラインの特徴を活かしたロールプレイング

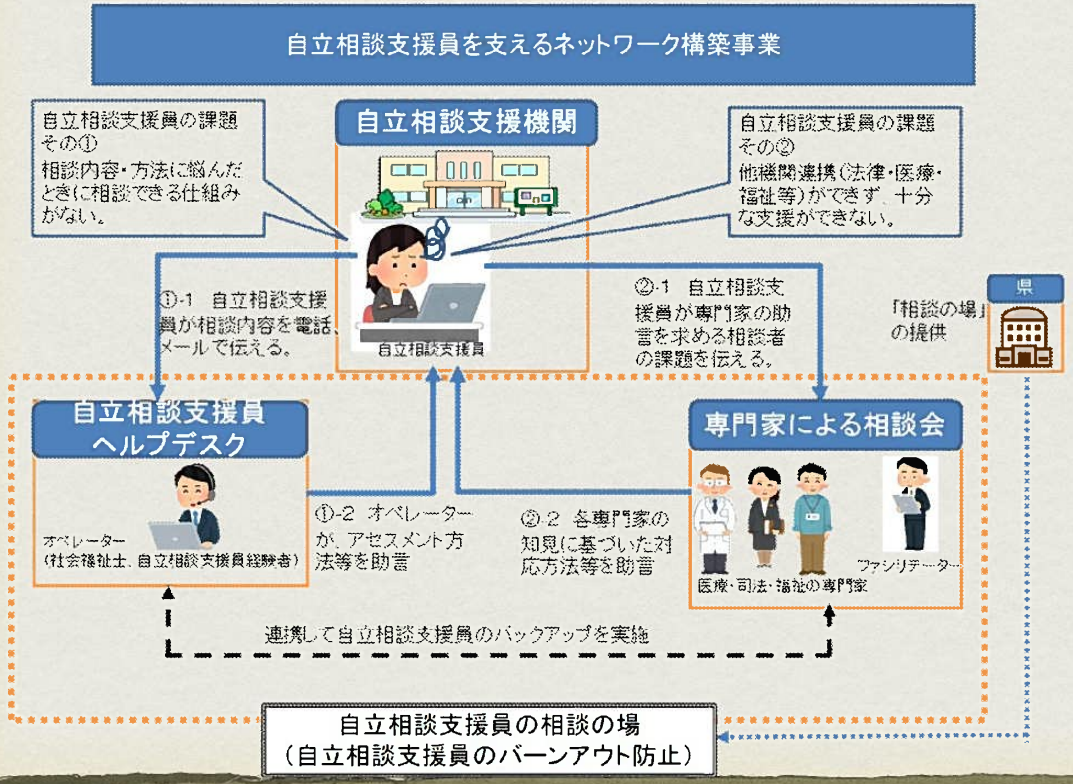
プロの役者に様々な相談者を演じてもらい、相談対応の様子を撮影

それを研修で配信し、参加者同士で対応法を議論した後、講師が相談のポイントを解説

ロールプレイングで伝えたいことは「相談者の現在の姿には理由がある」ということ！

③支援員ヘルプデスク対応事例発表会の開催

全県の自立相談支援員等が、支援方法等について相談できるヘプルデスク、相談会を事業実施している。ヘルプデスク等への相談事例の発表会を実施し、相談のポイントを共有



【発表事例】

相談内容のあれこれ

本人は難病（80歳代） 精神疾患のある娘が買い物依存。借金をどうすれば‥	カップルで社協に貸付の相談で来所（20歳代） 共依存、借金、仕事続かない、両家庭にも課題あり
精神手帳所持の本人（40歳代） 兄と遺産相続でもめており虐待も受けている	外国人の母親（日本語×） 息子（9歳）が発達障害かもしれない。 最近は不登校に‥

④多職種相談会での実地研修

医療・司法・福祉の専門職が参加して実施している相談会に参加する機会を設け、社会福祉士のアセスメント方法や医療・福祉の専門家へのつなぎ方、様々な職種とのネットワークを構築してもらう。

多職種相談会（なんでもかんでも相談会）の様子

医師 歯科医師 薬剤師 保健師 看護師 歯科衛生士　理学療法士 作業療法士 柔道整復師　弁護士 司法書士 行政書士 社会福祉士 精神保健福祉士 保育士 障害者相談支援専門員 社会保険労務士 外国語通訳 送迎ボランティア　約50名

２　オンラインの課題への対応

（１）参加者の受講状況が分かりにくい

　ビデオを「オン」で受講を必須に。受講状況を確認し、どのような理由であれ、１０分以上不在の場合は「未受講扱い」とした。

（２）オンラインでのグループワークが不慣れ

　オンラインに不慣れな参加者などが多いグループなどは、積極的な意見交換が行われない場合がある。そのため、各グループにファシリテーター（企画メンバー）を配置し、議論が深まるようにした。

（３）音声の品質の確保

「音声が聞こえにくい」との声があったため、外部接続のマイクを利用

３　Ｒ４年度の取組みに向けて

（１）研修のアンケートから
　①「グループワーク時間を延長してほしい」
　　グループワーク、情報交換中心の研修を検討
　②「経験年数別の研修を実施してほしい」
　　経験年数（ベテラン）向け研修を検討

（２）包括的支援体制との連携に向けて
　　包括的支援体制についての研修を検討

（３）支援員等が課題を抱え込まないために
　　課題に応じた連携方法についての研修を検討

さいごに

（１）研修の企画メンバーについて
　最初は２～３人程度の少人数でもいいと思います。メンバーの中で知り合いに声をかけてもらい、どんどん増やしていきましょう！

（２）研修内容・講師について
　相談のプロである「社会福祉士」に相談しましょう！ 社会福祉士の集まりである「社会福祉士会」では、様々な研修を実施しており、そのつながりで多職種の講師にもつながれます。

（３）とにかくやってみる！
　最初から完璧な研修は困難です。トライ&エラーを繰り返し、徐々にレベルアップしていきましょう！

（４）現場目線を大切に
　現場の方々が「何に困っているのか」をアンケートや現場に出向き、確認し、研修に反映させましょう！